

令和元年実施

リアルな場づくり

報告書



一般社団法人全日本冠婚葬祭互助協会  
広報・渉外委員会





広報・渉外委員会委員長 志賀 司

## はじめに

# 若手人材を業界へ誘引できるか 学生との意見交換で探る

山下会長体制のもと、広報・渉外委員会では大きな課題を頂きました。それは「広聴の推進」であり、情報発信に留まらず広く情報を吸収しニーズを掘り起こしていくためには何が必要であるのか、実現に向け多くの議論を交わしてまいりました。今までにないものを創造する生みの苦しみの中「リアルな場づくり」という事業構築に至り、昨年は2度にわたり学生との意見交換会を開催することができました。

私たちの業界において、「人材不足・人手不足」は大きな課題となります。これまで就職前の学生との意見交換会等の実施実績はなく、葬祭業界を目指す学生との意見交換会を実施したいと考えました。また、

仕事に対する意識や世代による価値観の相違、社会変化に伴う意識などを確認・理解すること、今後どの

ような情報発信が若者に的確に浸透し、若手人材の互助会業界への就職や商品価値の効果的な広報に誘引できるかを目的として定め、神奈川県平塚市にある日本ヒューマンセレモニー専門学校において開催いたしました。

5月に開催した第1回では、「葬祭業を学びたいと考えた理由は何か?」「今後のご葬儀・互助会はどのように変化していくのか?」をテーマとして学生とディスカッションを行いました。学生たちは様々なきっかけにより葬祭業に興味を抱くとともに、前向きに考えている方が多く、また自身の進む葬祭業界の今後の見通しについても、私たちの想像を超え

る学生たちの考え方、そして積極的な発言に大変驚かされました。

11月に開催した第2回では、「新時代の人材獲得と採用について」「入社3年目までの社員が抱く志と葬祭実務の現状について」をテーマとしました。学生からの視点とは異なり、主に事業者ならびにリアルな現場の声として就業者の視点を取り入れたディスカッションを行いました。入社1年目から3年目までのリアルな現場の声は、学生たちにとっても貴重な原体験を窺い知れる良い機会になったのではないかと考えています。

葬祭業界は高齢化社会に伴い今後ますます需要が高まっておりますが、一方で高齢化社会への移行に伴う家族構成の変化や儀式に対する意識変化等により、葬儀自体が簡素化傾向にあります。日本における葬儀とは本来、長い歴史・伝統に基づき受け継がれてきた大切な儀式文化です。学生との交流を通じて、葬祭業界に真剣に向き合おうとしている若い世代の存在は大変心強くもあり、業界を担う立場として改めて身の引き締まる思いとなりました。今回は葬祭業界への就職を志している学生を対象とさせていただきます。今後も様々な手法を用いて「リアルな場づくり」を企画検討し、私たちの互助会業界の情報発信そして率直な意見交換などを通じ効果的な広報・広聴活動を実施していく。対外事業とともに、会員各社に向けた情報発信も積極的に実施していきたいと考えております。結びに、開催にあたり多大なご尽力を頂いた山下会長をはじめ、株式会社サン・ライフの竹内様、そして多くの関係者の皆様には心より感謝申し上げます。

# プロフェッショナルを目指す 若者との意見交換会を実施

## ポイント

- ・葬儀業を学んだきっかけは、親戚の葬儀に参列した経験、葬儀業でのアルバイトの経験、親が葬儀業を営んでいる、など
- ・葬儀へのイメージの変化として、仕事とする上では、ある程度割り切ることも必要と気付いたという意見が挙がった
- ・葬儀の減少・単価の下落により、業界の未来に不安を学生は抱いている

近年、葬祭業界においても「人材不足・人手不足」が深刻化している。全互協では、若者たちに対する採用のアプローチ方法や世代間の価値観の違いなどを確認・理解するため、日本ヒューマンセラモニー専門学校にご協力いただき、業界への就職を志す学生と意見交換会を開催した。山下裕史全互協会長による開会あいさつの後、広報・渉外委員7名と学生8名が2グループに分かれ、2つのテーマについて2部構成で意見交換が行われた。最後に、学生代表からのお礼の言葉があり、志賀司広

報・渉外委員長より閉会のあいさつがあり盛況のうちに終了した。

## 第1部

### 葬祭業を学びたいと考えた理由は何か

第1部では、「葬祭業を学びたいと考えた理由は何か」というテーマで意見交換を行った。

葬儀業を学んだきっかけとして、親戚の葬儀に参列した時の経験、葬儀業でのアルバイトの経験、親が葬儀業を営んでいるなどが挙げられた。

委員からは入学してから葬儀のイメージが変化したか、葬儀を通じて何を

提供したいか、などの質問があった。

葬儀へのイメージは、実習などを経験したことで、1日に複数の葬儀に対応しなくてはならないこともある。そのため、1つの葬儀に集中して対応することは難しく、仕事としてある程度割り切って多くの葬儀を受け入れていかなければいけないことを実感して戸惑ったというのである。これについて委員からは、専任で対応できなくても、チーム全員できちんとつないでいくこと

が大切とアドバイスをもらった。

また、葬儀を通じて提供したいものは何か、という問いに対しては、ご遺族に寄り添い、葬儀後の故人様がいない生活環境もサポートできるような思いやりを提供したいといった声や、ご遺族が、故人様との最後の時間を安心して過ごすことができるように「ケアの方法」を提供したいといった答えがあった。委員からは葬儀の単価に対して自分はそれに見合ったものを提供できるのか、考え続けていく必要があると問題提起がなされ、学生たちは真剣な表情で耳を傾けていた。

一方、学生からの、お客様と接する中で重視していることは何かとの質問に対し、委員からは感謝の気持ちや、故人様らしい葬儀をするためのご遺族とのコミュニケーションが挙げられた。

学生たちは就職活動中ということもあり、企業が求める人材はどのような



山下会長

## 【開催概要】

- 日時 2019年(令和元年) 5月10日(金) 13:30~15:40
- 場所 日本ヒューマンセラモニー専門学校
- 参加者
  - 全日本冠婚葬祭互助協会
    - 会長 山下裕史
    - 広報・渉外委員会 委員長 志賀司
    - 副委員長 安田幸史
    - 委員 酒井登、三浦尚克、鷺修央
  - 日本ヒューマンセラモニー専門学校
    - フューネラルディレクターコース 2年生8名 (オブザーバー)
    - 日本ヒューマンセラモニー専門学校
      - 副理事長 竹内圭介、顧問 武田七郎



2グループに分かれ、活発に意見が交わされた

人かといった質問も出された。これについて「お客様のために働ける人」などと委員は回答。さらに、「社員1人ひとりの元来持っている能力はさほど変わらない。差が出るのは運があるかどうかで、この運は明るく、身だしなみを整えている人などが引き寄せられるもので、努力によって掴むことができるものだ」という話に対して、学生たちが熱心に聞き入る一幕もあった。

第1部の最後には、委員・学生それぞれから中間発表が行われた。

安田副委員長は、「専門学校で習う知識は日本語で言うところの標準語。地域によって異なる部分もあるので、それはその地域のやり方に合わせていっ

てほしい」と述べ、上田副委員長からは「葬祭業界で求められる力は色々あるが、何よりも『気付く』ことが大切なので、その能力を磨いていってほしい」という言葉があった。

## 第2部

今後のご葬儀・互助会はどのように変化していくのか

第2部では、メンバーを入れ替え、「今後のご葬儀・互助会はどのように変化していくのか」をテーマに意見を交わした。

学生からは、少子高齢化によって、将来的に葬儀の件数が減るのではないかと、家族葬の増加など儀式の小規模化や簡略化で、1件当たりの単価が下がっていくのではないかと、といった指摘がなされた。

委員からは、確かに悲観論もあるが、葬儀が完全になくなることは、まずないだろうという前提のもと、これからの業界を担っていく若者たちが、希望をもって、互いに新しいアイデアを出し合い、葬祭業界の幅を広げていってほしいとの願いが語られた。

これに対し、学生からは宗教と切り離された葬儀の形が増えるのではないかとといった意見も出て、委員はアメリカで行われた、あるお別れの集まりを例に挙げた。その集まりでは、弔辞を

思いついた人から述べていき、故人の死を受け入れられたと思った人から立ち去っていくというもの。弔辞自体も必ずしも述べる必要はないという。委員から、果たしてそのようなお別れの仕事が日本では受け入れられるだろうか、と投げかけられると、学生たちは一様に考え込んでいた。

さらに、葬儀業に関して、どのような未来を目指したいと考えるか、については、学生からは弔いの気持ちのこもった葬儀によって果たしたいと、その声が聞かれた。そのために、多くの人に葬儀の意味や内容などを知ってほしい、また生前に葬儀に関する親族での話し合いの機会をもつてほしいといった意見が挙げられた。委員がそれに対して、エンディング・ノートの活用件数の低さなどの例を挙げ、どうすれば亡くなる人自身の想いを送る人に繋いでいけるのか、と問いかけると、学生からは、亡くなる人の生前に、担当者がご自宅を訪問して、本人の想いを聞き出す、紙ではなくアプリで残すのが良いなどの答えがあった。

他にも、印象に残っている葬儀でのエピソードや、葬祭業はAI（人工知能）に取って代わられてしまうのか、など多岐にわたる内容について意見が活発に交わされた。



志賀委員長

第2部の最後にも、学生・委員それぞれの発表が行われた。

上田副委員長は、「今後働き手が減っていく中、高齢者でも働きやすい環境を整えたり、AIを導入したりするなどの対策について、活発に意見を交わすことができ、私たちも刺激を受けた」と述べた。三浦委員は、「互助会として積み立てをする意義が、特に若い世代では分かりづらい。プライダル・葬儀以外での利用や、またその情報発信の仕方を考えていかなければいけないと感じた」と語った。

閉会後には、学生から、「普段話すことのできない方々から貴重な意見を聞くことができた」「今は想いの方が強いが、働く中で、経営数字的にも考えられる人になりたい」といった声が聞かれ、学生、委員双方にとつて、大変有意義な時間となった。

# 葬祭業界の企業に入社を控えた 学生との意見交換会を実施

## 第1部

### 「新時代の人材獲得と採用について」

#### ポイント

- ・企業選定で重視した点として、身内の葬儀を挙げた経験などによる「安心感」が多く挙げられた
- ・入社後の自分を思い描くための情報が知りたい、という声が多い
- ・インターシップなど、実際の現場を見ることが就職を決める上での決め手になった
- ・採用ホームページでは、社員の顔や、性格などが載っていると親近感を覚える

リアルな場づくり第2回では、「学生が求める企業・葬祭業界にチャレンジする若者」を副題に、2部構成で意見交換が行われた。はじめに、山下裕史全互協会長による開会あいさつがあり、その後、広報・渉外委員7名と学生11名が2グループに分かれ意見を交わし、最後に志賀司広報・渉外委員長のあいさつにより閉会した。

#### 「安心感」を挙げる学生が多数

第1部では、「新時代の人材獲得と採用について」というテーマで意見交換を行った。

就職活動では、どのような基準で企業を選定していたのか、という委員からの質問に対し学生からは、身内の葬儀を挙げた、学校の先輩や親戚が勤めている、教員から勧められた、学校の実

習先だった、などによる「安心感」が大きかったことが挙げられた。

「身内の葬儀を挙げた」を理由とした学生からは、「身内の葬儀を挙げたため安心感もあつたし、また、もともとその葬儀がきっかけとなって、職業としての葬儀業にあこがれを持ったため、就職活動の際にも、その葬儀社を第一志望にした。その次に重視したのは、収入や通勤時間、働きやすさなどだった」という声が聞かれた。

「学校の先輩が勤めている」と語った学生の中には、先輩に直接、社内の雰囲気や実際の収入などを聞いたという人もいた。自分が働く姿を思い描くことができ、安心感を得られたという。学校の実習先を挙げた学生も、実際に働いている人たちのリアルな声を聞いたことが、就職先を考える上で重要な要素になったと語った。

就職活動を進めていく中で、その企

#### 〔開催概要〕

- 日時 2019年(令和元年)11月29日(金) 13:30~15:40
- 場所 日本ヒューマンセラモニー専門学校
- 参加者
  - 全日本冠婚葬祭互助協会
    - 会長 山下裕史
    - 広報・渉外委員会
      - 委員長 志賀司
      - 副委員長 安田幸史
      - 副委員長 上田堅司
      - 委員 酒井登、三浦尚克、鈴木康伸
  - 日本ヒューマンセラモニー専門学校
    - フューナラルディレクターコース2年生 11名
- (オブザーバー)
  - 日本ヒューマンセラモニー専門学校
    - 副理事長 竹内圭介

業に「安心感」を覚えて、就職を決めた、という声も複数聞かれた。選考が5次まであったという企業に就職を決めた学生は、「2次選考の段階で、採用担当者や社長が、自分の名前だけでなく、好きなものなども把握していて、この会社ならば自分が何かミスをしてしまった時にも一緒に乗り越えてもらえるのではないかと感じた」という。

また、最終面接の時に未成年だったという学生は、社長が、未成年の子どもを預かるのだからと、自ら、母親に電話をかける姿を見て、この企業であれば長く勤められるだろうと感じ、入社を決めたと話した。

#### 実例を伴う情報発信が重要

これ以外にも、収入や知名度、福利厚生、社風などが挙げられた。

収入に関して、委員から、採用の段階ではあまり詳しい情報は入手できないのではないかと思うが、どうやって情

報収集したかという質問が出た。それに対し、学生は初任給を見ることが多いと答えたが、年齢や資格などによって、どの位の給与がもらえるのか、目安が提示されている企業もあり、参考になったという意見もあった。

委員からは、個々人の能力や繁忙期か、などによっても収入は異なるため、一律に示すことが難しいとした上で、実際に自身の企業ではどのようなように給与が決まっているのかといった話があり、学生たちが熱心に耳を傾ける一幕もあった。

女子学生を中心に、福利厚生を重視する学生も多かったが、どのような福利厚生があるのかが挙げられているだけでなく、例えば育児休暇であれば、実際に、1人の社員のキャリアパスがホームページに載っていて、いつ結婚・出産し、育児休暇を取ったのかが示され

ていると、入社した後の自分を想定することができて良いといった声が聞かれた。

社風という点では、上司に気軽に相談できる環境があることを学校の先輩から聞いた、納棺師の育成機関に行っていた時に、その育成機関を運営している会社の人も交流を持ち、社員へ尊敬の念を抱いた、学校の実習で行った企業の社員がお客様の前と、社員だけの時で、オンオフの切り替えがはっきりしていたことに好感を覚えた、などの意見が挙げられた。

### 現場を見たことが決め手

他に多く聞かれた意見としては、インターンシップや、採用過程などで、実際の現場の姿を見たことが決め手になったというものがあった。

例えば、学生が実際に湯灌に立ち会い、その反応を見ることでミスマッチを減らそうとする試みがなされているところもあったという。

一方、数は多くないものの、聞かれた意見としては、グループ会社が多く、葬祭以外の部門を経験したいと思った時に、その希望が叶うのではないかと思った、ゆくゆくは家業を継ぐことを快く認めてもらった、地域のお祭りに協賛していて、地域の方々と信頼関係が築けているのではないかと思った、な

どもあった。

グループ間の異動では、委員から給与面で折り合いが付かないこともあるといった事例が語られた他、別の委員からは、「どんな仕事でも楽しんでやることが大切。葬祭であれば、葬家さんのことを本当に想って取り組めば、きつとやりがいを感じる」といった話もあり、学生たちは一様に頷きながら聞いていた。

就職という大きな節目に立たされた時に、勤務する上での安心感、勤務する姿が想像できる、といったことを重視する学生が多かった。他にも、通勤時間を最も重視する学生や、週に2日、固定で連休があることが決め手になったという学生、休みは少なくとも構わないが、その分収入を重視するという学生もいた。

これに関連して、委員からは、働き方改革が進められているが、休みと収入のバランスは従業員によっても考え方が異なることもあり非常に難しい問題だといった話があり、学生たちも耳を傾けていた。

### 入社後のイメージを知りたい学生

採用のホームページに関しても、意見が交わされた。社員数が少ない企業で、全社員1人ひとりの名前と顔写真、趣味や信条などが書かれているホーム

ページを見て、親近感を覚えたという意見が出た。

学生が知りたいと思う情報としては、業務の詳しい流れや、分業制なのか一担当制なのか、入社後のキャリアパス、インターンの具体的な日程や内容などが挙げられ、入社後のイメージをしやすいかどうか重要視されていることが分かった。

第1部の最後には、委員・学生それぞれから中間発表が行われた。

上田副委員長は、「社長面接の有無が気になっていたが、学生の方々からは、それよりも会社の雰囲気や重要という話が聞かれて有意義だった」と述べ、酒井委員からは、「学生の方々から、インターンシップという単語が度々出てきて、ここ数年で就職活動におけるインターンシップの重要度が増していることを実感した」という感想があった。



上田副委員長



酒井委員

## 「入社3年目までの社員が抱く志と 葬祭実務の現状について」

### ポイント

- ・入社1〜3年目の社員のアンケート結果に、学生たちは自分の将来の姿を重ねていた
- ・入社後、社内に身近な相談相手はいるのか、など学生の不安は多岐にわたる
- ・入社後、どういった研修を受けて、いつ頃から担当を持つのか、という情報への学生の関心は高い

### 将来の自分に重ね合わせる

第2部では、「入社3年目までの社員が抱く志と葬祭実務の現状について」というテーマで意見が交わされた。事前に、学生から質問を募り、委員各社の入社3年目までの社員を対象に行ったアンケート結果（P13〜18に一部抜粋したもの掲載）を参考にしながら話された。

学生たちからは、アンケート結果の中でも特に「担当を持っていますか？（何年目で担当を持ちましたか）」や「仕事をそつなくこなせるようになるまでにどのくらいかかりましたか？」といった質問に関心が寄せられた。それに対し委員からは、人や会社によっても異なるとした上で、自社の例を挙げて具体的に話をしていった。3年位で担当

を持つようになるころもあれば、1年程度で担当を持つところもあり、学生たちは自分の将来に重ねながら聞いていた。

インターシップの際に社員の方から、「施行を完璧にこなした上で、営業力といったプラスαの能力が必要だ」と言われたという学生から、プラスαの能力にはどのようなものがあるのかという疑問が呈された。委員は、「それよりもまずは仕事に慣れ、知識を吸収していくことのほうが大切。好奇心を持って仕事に当たり、疑問に感じたこととはどんどん先輩に聞いて、答えをメモして、仕事の幅を広げていってほしい」と応じた。

また、入社すると、入社前に思い描いていたこととギャップを感じるような

シーンにも直面することがあるとした上で、まずは、そのギャップを乗り越えていってほしいという話もあった。

### 社内の相談相手の有無

「葬祭業務に携わったことで変化した私生活はありますか？」というアンケートに対して、学生からは、各委員に経営者の立場から自社の社員を見ていて、どのような変化を感じるかという質問が出た。

姿勢・表情が良くなる、というだけでなく、物腰が柔らかくなったり、礼節がしつかりしたり、自然な気遣いができるようになっていく、という話があり、特に、「もっとお客様に喜んで頂こう、どうしたら喜んで頂けるかな」と考えている人は伸びているといった意見もあった。

学生の中には、インターシップの際にミスをしてしまったが、自分の話を聞いてくれる社員がいたことで気持ち的にも救われた経験から、「親しく話せる先輩はいますか？」という質問を投げかけた人もいた。

これに対するアンケートの回答は、「いる」という人が多く、また委員からも、「社内を見回してみると、大体いるように思う。同じ環境で仕事をしているうちに自然と馴染んでいく」といった話があった。社員にも色々な性格の



人がいるから、ネガティブな人ではなく、ポジティブに仕事に取り組んでいる人と関わるようにしたほうが良いといったアドバイスもあり、学生は熱心に聞き入っていた。

### 初心はいつでも思い出せるのか

入社を控えて、様々な不安を抱える学生たちは、「辞めたくなくなった時、どのように乗り越えましたか」という質問の回答にも興味を示していた。回答では、「家族などに相談した」が多くあり、委員からは色々な人に相談をした上で、



最終的には自分で決めれば良いと思う、といった意見や、入社した時の初心を思い出してほしいといった話があった。

ここから派生して、学生から、何年経っても初心は思い出せるものなのか、との質問が出た。委員は、毎年4月になると思い出す、入社して最初に指導をしてもらった人からは業務だけでなく、仕事に対する考え方や人との関わり方など、多くのことを教わって、現場を離れた今もことある事に思い出す、などと語った。

また、よく1つの会社に3年はないといけない、と言われるが、なぜ3年なのか、と学生から尋ねられると、委員からは、「3年いれば一人前というわけではないが、経験値が増えて、仕事の幅が広がっていくからではないか」といった答えがあった。

#### 入社後の見通しが知りたい学生たち

委員から学生に対して、入社後の研修スケジュールや、いつから担当を持つことになるかは知っているのか、と質問を投げかける場面もあった。

学生の多くは、研修スケジュールは知っているが、担当をいつから持つのかは知らないという人が多く、分かっているのであれば、事前に知りたいという声が多く挙がった。

これに対し、委員が自社の研修スケジュールを説明すると、自分たちのような専門学校で事前に学んだ学生でも、同じ過程を辿るのかという質問が出た。委員は、これまでに専門知識を身に付けた新入社員の実績はないが、現行制度では同じように研修をすることになるとした上で、学んだ知識と実情は異なることもあるから、経験を重ねることが大切という話があった。

他にも、委員から学生に対して、分業制が良いのか、一担当制が良いのか、という質問が出た。学生の多くは、一担

当制を希望していたが、委員からは「仕組みを構築して、引継ぎをしつかりと行えば分業制でも、丁寧な対応ができる」という話や、一方で「喪主様から直接伺った想いを、自分自身で実現させてあげることができるよう一担当制を採用している」といった意見があり、学生たちは双方の考え方を噛みしめながら聞いていた。

第2部の最後にも、学生・委員それぞれの発表が行われた。

安田副委員長は、「心配事をたくさん抱えて入社してくる新入社員に対し、企業側としては、悩んだ時などに気軽に相談できる環境を整える必要があると感じた。また、就職活動の中では、企業として、何年目ではどんなことをしているのか、といった目安を示してあげることが入社前の不安を少しでも軽減することに繋がるのではないかと述べた。

三浦委員は、「入社を控えた学生の皆さんが抱える、色々な不安を聞く中で、入社後にどのようにストレスと付き合っていくのか、ということが一番の課題になるように思った。入社1〜3年目社員の率直な意見が書かれたアンケート結果を参考にしつつ、ポジティブに物事を捉えて、頑張っていってほしい」と語った。

最後に、志賀委員長より閉会のあいさつとして、感謝を述べるとともに、学生たちへ、将来不安に思った時には「おくりびと」や「おみおくりの作法」などの映画を観て、自分は大事な仕事をしているのだと思いついてみてほしいというお話があり、盛況のうちに閉会した。



安田副委員長



三浦委員



## 学生の感想 (抜粋)

### 第1回

- ・ 普段話すことができない方々の貴重なお話を聞いただけでなく、意見交換までできました。今回の経験を今後の就職活動や仕事に生かしていきたいと思えます
- ・ 私たち学生が思っていることと、企業の方の考えを交換することができ、とても有意義な時間になりました
- ・ 自分では考え付かないこと、新しい発見ができました
- ・ どのような人材が欲しいかという具体的な意見を聞いて参考になりました
- ・ 入社前に現状の業界について知ることができて良かったです
- ・ 信頼されることや信用されることをどなたも大切と言っていたのが印象に残りました
- ・ どのような人材、能力が必要か、というお話で、コミュニケーション能力、可愛がられる人というお答えが印象に残りました

### 第2回

- ・ 皆様とお話して企業側の意見を知ることができ良かったです
- ・ 苦労した分だけ成長に繋がるので我慢強く耐えていこうと思えます。社長の方々とは様々な意見交換ができ、とても勉強になりました
- ・ しんどかったことを具体的に知ることができ、心構えを持つことができました
- ・ リアルな場づくりアンケートの解答が充実しており、自分が困った時の助けになりそうなものがたくさん書いてありました
- ・ 就職してからのイメージが湧いていないところがあったので少し不安を感じていたのですが、実際に業界で働く方の声を聞くことができイメージが湧きました
- ・ 好奇心を持ち会社のやり方を吸収していくことで成長していくと伺ったので、分からないことがあっても大丈夫という安心感が出ました



株式会社サンセルモ  
安田 幸史

初めて社会へ出ていく学生にとってはやはり最初の就職先を選ぶにあたり色々な不安や迷いがあり、今後の人材不足を補っていくうえで、また優秀な人材を確保するうえで、企業側としてどのような情報を提供すれば学生側の不安を取り除けるのかを真剣に考えなければいけないと感じました。また、葬祭業のプロを目指す思いが強いからこそ入社後のことを真剣に考えているのだなと印象を持ちました。2回の交流を持つことで、学生側も本企画の趣旨は理解しており忌憚のない意見交換ができたと思います。今後、私達の業界で主力を担う若者と直接意見交換ができましたが、時代も令和へと変わり企業側の意識もいつまでも昭和のように雇ってやっているという意識だと今後の人材不足の波は乗り越えられないなという印象を受けました。若者が会社に何を望んでいるのか？ 会社側はなにを望むのか？ これらのバランスを見極めた上で採用活動をしていかなければならないと感じました。



## 委員のコメント



ユウベル株式会社  
上田 堅司

全互協としての初めての取り組みであります、リアルな場づくりは参加された学生にとりましても、全互協にとりましても、とても意義深い内容となりました。日本ヒューマンセレモニー専門学校の学生の皆様は非常にモチベーションが高く、これから社会に出て働くという未知の世界に対して、意義・目的を明確に持っておられました。これから葬儀業にチャレンジしていく為の理由や不安に感じている事等、忌憚のない意見を出し合う事により、学生が感じている「生」の声を聴くことができました。また、学生の皆様にとっては、葬祭事業の経営者に直接質問や意見を言える機会は中々ありませんので、葬祭業界の将来展望や国自体の今後について、AIやロボットについての話等内容も多岐にわたり、就職活動をする上でのヒントや考え方の変化もあったのではないかと思います。今回、副委員長として携わらせていただき、仕事に対する価値観がかなり変化している事を肌で感じ経営側の意識変革も早急に進める必要を感じました。

## 1. 就職活動状況について

### (1) 就職を希望した業界について(複数選択可)

一般葬儀社	81.8%
互助会	72.7%

### (2) 上記(1)の内、検討した企業数と実際採用面接を受けた企業数

検討した企業数		実際採用面接を受けた企業数	
3社以下	5人	1社	2人
4~5社	3人	2社	3人
6~10社	2人	3社	2人
11社以上	1人	4社	2人
		5社	2人

## 2. 就職先の企業を選定するにあたり、重要と考える項目

1位	収入
2位	福利厚生
〃	通勤時間
4位	社風
〃	仕事のやりがい
〃	身内の葬儀をあげてもらった
〃	実家葬儀社への就職

## 3. 企業情報の収集に役立ったツールについて

1位	就職情報サイト
2位	学校主催の説明会
3位	校内の求人票
4位	就職活動担当教員からの情報提供
5位	個別企業説明会

#### 4. 企業情報の収集において①最も良かった、②最もインパクトのあった企業のホームページ等について

①最も良かった企業名	理由
あいネットグループ	会社について分かりやすかった。
(株)和田	こまめに更新されており良かった。
さくら葬祭(株)	ホームページのデザインがシンプルに良い。
(株)公益社	詳しいパンフレットや実績。

②最もインパクトのあった企業名	理由
(株)アーバンフューネスコーポレーション	葬儀社だと思って調べた中で、ITについて記載されていたため。
(株)サンセルモ	写真が多く見やすかった。
(株)ライフシステム	求人ページを開くとすぐに一点無限のスローガン。
横浜葬祭(株)	説明の時、忙しいということをとにかく伝えてくれた。
(株)イヨダ	社員さん1人ひとりの自己紹介がのっていたから。
横浜祭典(株)	学校主催の説明会での社員さんの熱い話があったから。
(株)ユー花園	写真や分かりやすい資料。

#### 5. 就活に伴うインターンシップについて

##### (1) 就活中のインターンシップで経験して良かったことについて

- 主にどのようなことをしてるか。どんな会社が少し分かった。
- 実際にどんな人が働いていて、どんなことに力を入れているのか、現場の人の声その場で聞けたこと。
- 実際に触れて見ることで業務の理解が深まった。

##### (2) 就活中のインターンシップで経験して悪かったことについて

- 忙しすぎて、詳しく指導して頂く時間がない。

##### (3) 就活中のインターンシップで経験したかったこと

- もう少し詳しく会社の雰囲気を知りたかった。日数が少なかった。
- 実践的な業務に自分が携わる。

##### (4) 就活に伴うインターンシップへの参加について

1社	2人
2社	1人

##### (5) 就活に伴うインターンシップの内、参加日数の種類(3種類)とどの日数が良かったかについて

参加日数の種類	1日、3日、7日、14日、22日
ちょうど良かった日数	3日、4日、22日

## 第2回リアルな場づくり参考資料◆入社1～3年目社員アンケート結果(抜粋)

### ◆志望動機について

#### 1. この仕事をどういった理由で選んだのでしょうか。

1年目	<ul style="list-style-type: none"><li>・冠婚葬祭の仕事は人の気持ちを大切にできる仕事だと思ったからです。</li><li>・誰かの役に立ちたいと思いました。</li><li>・長く働きたいと思ったからです。</li><li>・初めて身内のお葬式を経験してすごく葬儀関係の仕事に興味を持ったからです。</li><li>・将来性のある安定している会社だと思ったからです。</li><li>・葬儀を執り行う、ご遺族の大切な場に携われる職業に就きたいと思い選びました。</li><li>・お客様の心に寄り添うことに重きを置いて仕事ができると感じたからです。</li></ul>
2年目	<ul style="list-style-type: none"><li>・高齢化社会においてやりがいのある仕事だと思ったから。</li><li>・日常生活の中ではなかなか関わることのない場所で、お客様に寄り添うといったサービスに興味を湧いたため、この仕事を選びました。</li><li>・昔に家族がお世話になった時に、すごく良い対応でしたので、僕もこの仕事をしたいと思い入社いたしました。</li><li>・就職活動を始める時期の少し前に、祖父母の葬儀に参列した際、スタッフの方々がとても親身になってくださり、親族みんな良い気持ちで葬儀を終えることができた経験から、このように葬儀の場でお客を支える仕事もあるのだなど知り、興味を持ったのがきっかけです。</li></ul>
3年目	<ul style="list-style-type: none"><li>・社員の多さ・福利厚生・給料面で選びました。</li><li>・父の葬儀の際に、葬儀社の仕事に興味を持ったからです。</li><li>・就職活動を行っているときに祖母が亡くなり、打合せの場に参加させて頂いたのがきっかけで、このような形で人の役に立ちたいと思い葬儀の場を選びました。</li><li>・「ありがとう」と言われる職に従事したいと思ったから。</li><li>・葬祭という仕事に興味があったから。</li></ul>

### ◆仕事への意識等について

#### 2. 今、やりがいを感じていますか？

1年目	<ul style="list-style-type: none"><li>・先輩がその都度、フィードバックをしてくれることです。</li><li>・毎日初めて知ることばかりで自分の知識が増えていくことがやりがいです。</li><li>・今の目の前の仕事に一生懸命なので、やりがいを感ずるまでの余裕がないことが現状です。</li><li>・できなかったことが1人で行える時や、お客様から感謝の言葉を頂いた際に感じます。</li><li>・お客様から「ありがとう」「お世話になりました」のお言葉を頂いた時には何とも言えないやりがいを感ずりました。それと同時にもっともっと頑張ってお客様に喜んで頂きたいと思いました。</li><li>・感じています、上手くできないことも多く、もどかしく思うことが多々あります。</li></ul>
2年目	<ul style="list-style-type: none"><li>・満足をしていただき「非常に良かった」と感謝の言葉を頂いた際に一番やりがいを感ずります。</li><li>・入社して2年半くらいになりますが、1人でお式を受け持つことや大きなお式に携わることも多くなり、日々責任感を持ちながら仕事に励んでいます。</li><li>・毎日違うことばかりで覚えるのが大変ではありますが、やりがいを日々感じながら仕事に取り組んでいます。</li><li>・担当した施行家の葬儀が、何事も無く最後まで無事に終えることに達成感とやりがいを感ずります。</li><li>・葬儀についての事前相談のお客様や、無事にご葬儀を終えられたお客様の表情が明るくなってお帰り頂ける瞬間に、安心とともにやりがいを感ずります。</li></ul>
3年目	<ul style="list-style-type: none"><li>・直接お客様よりお声を頂くことが少ない事務職ですが、何事も無く、無事にお客様がお帰り頂けることが何よりのやりがいだと日々感じています。笑顔でお帰り、とは難しいですが少しでも故人様を送り出せてよかった、というような気持ちを感じて頂ければいいなと、思っています。</li><li>・ご葬儀後、微笑んで帰られるご遺族をお見送りする際やご葬儀の相談でお部屋までお伺いした際に「ありがとう」の言葉を頂くとお気持ちに寄り添った良い最後の時間を過ごして頂くお手伝いできたことと実感します。</li></ul>

### 3. これから挑戦していきたいことはありますか。

1年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会館の責任者になりたいです。</li> <li>・担当を任せてもらえるように何事にも挑戦します。</li> <li>・1つの会館を任せてもらえるように指示されること以上のことをしていきたいです。</li> <li>・お客様や先輩・後輩にとって頼りになる存在、本当の意味の独り立ちができるように努力していく所存です。</li> <li>・感謝の気持ちを忘れずに、支配人、業務の方、アシスタント、清掃、それぞれの職種の方ができるだけスムーズに業務に当たれるよう、事務としての仕事の精度を上げたいです。</li> <li>・早く仕事を覚えられるように頑張りたいです。</li> <li>・お客様に質問されたらすぐに返答できるよう知識を身に付けていきたいです。</li> <li>・PCスキルアップと電話対応スキルの向上に取り組んでいきます。</li> <li>・大型葬などをもっと経験していきたいです。</li> <li>・この会社に依頼して良かったと思ってもらえる葬儀を提供できるようにしていきたいです。</li> <li>・指名されるようになりたいです。</li> </ul>
2年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葬祭ディレクター1級の取得を目指したい。</li> <li>・お客様に喜ばれるサービスや商品を考えていきたい。</li> <li>・担当を持てるように、しっかりと勉強していきたいです。</li> <li>・尊敬する先輩のように、後輩の指導をしていきたいです。</li> <li>・苦手なことをなくすために何事にも進んでやりたいです。</li> <li>・先輩方に頼らず、仕事ができるように分からないことを減らしていきたい。</li> <li>・最近では、1人で会館にいる際、飛び込みで相談に来られるお客様の対応をすることも増えたため、もっとはつきりと色々な質問に答えられるように、約款などはもちろん葬儀のマナーについても本などを読んで知識をもっと付けていきたいです。</li> <li>・直接会館に来られ事前相談を希望されるお客様は多く、対応する機会が増えたため、お客様に自信を持ってはつきりとお応えできるよう約款やマナーなど知識を増やすよう努力していきます。</li> </ul>
3年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早く一人前になって大規模なご葬儀の打ち合わせと担当をしたいです。</li> <li>・社会人になり、1年目で仕事を覚え、2年目で仕事をこなし、3年目で周りを見る目が育つ、と教わったことがあります。今までは自分のことで必死だった分、周りを見て状況を把握し、サポートしあえるような目線を持ちたいです。</li> <li>・お客様との日常会話においていかに興味を持って聞いてくれるか、またはいかに興味をひける話ができるかを勉強したいです。</li> <li>・葬祭ディレクター1級を取ることです。</li> <li>・専門的に知識を深めたいと思っています。</li> </ul>

### 4. 辞めなくなった時、どのように乗り越えましたか。

1年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修等で大変なことはたくさんありますが、退職を考えたことはありません。</li> <li>・なぜ辞めたいと思ったのかももう一度考え直し、別の方法や結果は出せないか思案し乗り越えました。</li> <li>・先輩や上司に相談したり、休日に自分の好きなことをしてリフレッシュしています。</li> <li>・現状がいかに恵まれていることを再認識するようにしています。</li> </ul>
2年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同期や先輩方、友人、母に相談をして乗り越えられたことがありました。抱え込まずに相談することが一番だと感じます。</li> <li>・仕事の楽しさを見出しました。</li> <li>・同期が頑張っている姿を見て、私も頑張りました。</li> <li>・おいしいものを食べて、寝て、体調を万全にする。そうすると、頑張ろうという気持ちになれます。</li> </ul>
3年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・辞めた後の生計を考えたり、周りに話してみたりすると落ち着きます。</li> <li>・周りの先輩や、上司に対して思っていることを正直に話し、解決するまでとことん悩みました。1人で抱え込まずに相談する事が必要であると思ったからです。</li> <li>・家族や友人に相談します。すぐ「辞める」選択ではなくまず自分の改善点を考え、偏見や仕事に対する姿勢を見直しました。</li> </ul>

## 5. 仕事をそつなくこなせるようになるまでどのくらいかかりましたか？

1年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>• まだまだ未熟ですが、早く戦力になれるよう努力します。</li> <li>• 流れをつかむまでに約1年程度です。現在も先輩の指示を得ながら勉強中です。</li> <li>• まだまだ勉強中ですが、3カ月目にして少し仕事の雰囲気に慣れてきました。</li> <li>• まだまだ知識不足ですがひとりで業務を一通り行えるようになったのは入社してから半年経った頃です。</li> <li>• まだまだ分からないことばかりで未熟ですが、4カ月目を過ぎたあたりから周りの動きを見る余裕を少し持つことができてきました。</li> </ul>
2年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 約1年くらいかなと感じますが、葬儀の仕事は多岐にわたるため、常に勉強と思っています。</li> <li>• まだそつなくこなせるレベルには到達していませんが、1人で事務を任されるようになるまでには5カ月ほど掛かりました。</li> <li>• 今もまだ未熟ですが、色々ご指導頂き、ある程度1人でも対応できるようになったと自分を感じる事ができるまでは、半年ほど掛かったと思います。</li> </ul>
3年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 未熟な部分もありますが約半年で一通りできるようになりました。その後異動を経験していますがエリア毎の違いは都度確認するようにしています。</li> <li>• 1人で一通りの事務業務ができるようになったのは、6カ月ですが、そつなくこなせるようになるまでには2年程掛かりました。</li> <li>• どこまでをそつなくと言う線引きは分かりませんが約1年半ぐらいだと思います。</li> <li>• 年数を重ねるごとに任せてもらえる仕事が増えていくので、まだまだ勉強中です。</li> </ul>

## 6. 初心を忘れないために、どのようなことを意識していますか。

1年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>• この仕事は奥が深いので日々勉強することを常に意識しています。</li> <li>• 周りで頑張っている同期に負けないという気持ちで頑張っています。</li> <li>• 常に平等にコミュニケーションをとることを意識しています。</li> <li>• 後輩が入社してきて先輩になった時を想像することで気持ちが引き締まります。</li> <li>• 入社した時を振り返り、復習を怠らないようにしています。</li> <li>• 入社した当時の意気込みや謙虚さを忘れないように意識しています。</li> <li>• 1日1日の与えられた仕事(業務)以外にも+aの仕事も1つでもできるように意識しています。</li> <li>• 一番初めに教えてもらった小さな仕事や、掃除を率先してやるように意識しています。</li> <li>• 身の回りの整理・整頓を意識するようにしています。</li> <li>• 「私が」どうするべきかではなく、「お客様は」何を求めているかと、主語を自分にして考えないよう心掛けるようにしています。</li> <li>• 初心を忘れないようにまずはしっかりと挨拶から意識しています。</li> </ul>
2年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 上司や先輩が必ずしも正しいとは限らないので自分自身の考え方はぶれないようにする。</li> <li>• 入社時に受けた研修を思い出し、忘れないようにノートを見返したりしています。</li> <li>• 誰かの目標になれるように意識しています。</li> <li>• 誰と接する時も感謝の気持ちを持つことを意識しています。</li> <li>• 基本に忠実に仕事を進めるように心がけています。</li> <li>• 思い込みを無くし、間違いがないか小さなことでもしっかり確認するようにしています。</li> <li>• 常に前向きに物事を考え、現在に置かれている立場を感謝して業務に取り組んでいます。</li> </ul>
3年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 常にお客様の目線で考えようとしておりますが、忙しい時は忘れがちなので気を付けていきたいです。</li> <li>• 今日の仕事を振り返る時間を作るようにしているのと、配属された時の自分の姿を忘れないようにしています。</li> <li>• お客様にとって一生に一度のことであるので毎日の仕事が初めての仕事であることを意識しております。</li> <li>• 掃除をすることを心掛けています。一番始めに教えて頂いたのが掃除だからです。</li> </ul>

## 7. 入社前と入社後の気持ちや考え方の違いはありますか。

1年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>• より努力が必要だと感じました。</li> <li>• 就職することに不安を感じていましたが、その不安が減ってきています。</li> <li>• 責任感を持って仕事に臨まなければいけないとより実感するようになりました。</li> <li>• 入社前と違って考え方の幅が広がりました。</li> <li>• 入社前より人の死について深く考えられるようになりました。</li> <li>• ご家族にとって葬儀というのが、どれだけ大事なのが再認識できました。</li> <li>• 1つひとつの物事に興味を持つようになりました。また、相手の立場になって物事を考えることです。</li> <li>• 自分や周りの人に何かあったときのことを、しっかりと考えるようになりました。また、思っていたよりもたくさんの方が1つの葬儀に関わっていることに驚き、他の事務員や業務の方とのチームプレーがとても大切だと知りました。</li> <li>• 報告・連絡・相談がとても大切であると改めて感じました。</li> <li>• お客様と関わる時間が少ないので、その中でより良い印象を持っていただけるよう、身だしなみや言葉遣い等に気を付けるようになりました。</li> </ul>
2年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1つの業務を1人で行うことが増え、ミスをしないようにと責任感がいっそう増えました。</li> <li>• 身だしなみ、言葉遣いに気を付けています。</li> <li>• 葬祭の会社ということで暗いイメージを持っていましたが、実際はメリハリのある明るい職場だと感じました。社員にとって働きやすいですし、それがお客様対応にも表れていると感じます。</li> <li>• 葬儀に関して、無知でしたがそれぞれの担当があり1件の施行が成り立っていると感じましたし、「死」と言う哀しさを考えるようになりました。</li> <li>• 社員1人ひとりが施設の人間として見られているという自覚を持つようになりました。</li> <li>• お客様と直接話す機会も多くあるので、人前に出る身だしなみ、表情、言葉遣いについて、入社前より気を付けるようになりました。</li> <li>• 伝達事項を簡潔にすばやく伝えることの大切さを強く感じるようになりました。</li> <li>• 心構え、言葉遣いなど、社会人としてのマナーを教わりました。</li> </ul>
3年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ご遺族には同意することよりも提案することが重要だと考えるようになりました。</li> <li>• お客様の立場から見るとスタッフと、実際に自分が働くのとは少なからず誤差があるものだと考えています。どれだけ忙しくてもお客様の前ではそのようなことを見せないのが、仕事であると思います。思っていた以上に大変な仕事だと日々痛感しております。</li> <li>• 元気でいられる内から家族ともしもの時についてや葬儀の内容を相談すること、また身辺の整理も必要だと感じました。</li> <li>• 報告・連絡・相談の大切さをより実感しました。</li> <li>• 1人で何とかしようと考えていましたが、どんな仕事でも誰かの力があって自分が仕事ができていることに感謝するようになりました。</li> <li>• ある程度仕事をこなしていく中で、責任ある仕事を任せてもらうことも増えたので、責任ということに関しては入社前後で考え方に変化がありました。</li> </ul>

## ◆仕事内容について

### 8. 一番記憶に残っているやりがいを感じた時はいつですか？

1年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お客様が自分の顔と名前を覚えてくださったことです。</li> <li>・尊敬する先輩からどんどん成長しているねと褒められたことです。</li> <li>・お客様から感謝された時です。</li> <li>・初めて故人様を病院にお迎えに行った時、人の生涯に携わる仕事をしているということにやりがいをとても感じました。</li> <li>・葬儀後にお礼の電話があり、その方とは直接お話ししていたので、こちらこそその気持ちが大きくとてもやりがいを感じました。</li> </ul>
2年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご遺族が葬儀を終えご自宅にお帰りになる際に直接感謝の言葉をかけていただいた時。</li> <li>・お客様に名前を覚えてもらったご葬儀。</li> <li>・1つひとつの仕事が1人で出来るようになったとき。</li> </ul>
3年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先輩に確認してもらいながらですが、初めて1人で葬儀の事務作業を始めから最後まで行った時です。</li> <li>・お客様の対応をしている際、名札を見てわざわざ名前をつけて話して下さった事です。1人のスタッフではなく、私個人に対して話して下さった時に、自分よりも何十年も先に生まれてきた方がわざわざ名前をつけて呼んで下さり、感謝の言葉を頂きました。葬儀うんぬんを抜きにして、人に対する姿勢を学ばせて頂いたと同時にそのようお客様に声を掛けられて初めて今までの対応は間違っていなかったんだと思えました。</li> <li>・葬儀終了後に記念撮影に入って欲しいとお願いされ、君は家族同然だと言って頂いた時です。</li> <li>・お客様より御礼の手紙を頂いた時。</li> </ul>

### 9. 一番しんどいと思った仕事内容は何ですか？

1年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生後間もない故人様のお葬儀に携わった際に感情移入してしまったことです。</li> <li>・棺・祭壇等、重たいものを運ぶ時。</li> <li>・入社して初めて告別式で故人様のお別れに立ち会った際にご遺族様が泣いているのを見て精神的に一番つらかったです。</li> <li>・施行依頼が立続けにあり状況判断ができない時に自分の未熟さを痛感しました。</li> <li>・自分がまだ1人で何もできないがために式や通夜が多く忙しい時でも片付けや掃除等しかできず申し訳なく思いました。</li> <li>・夜通しの作業になることがあったためその際になります。</li> </ul>
2年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さいお子様を亡くされたご葬儀。</li> <li>・夜勤業務の仕事です。寝台依頼が重なった際には焦ってしまうことがあるからです。</li> <li>・就業時間が不規則なこと。</li> <li>・お客様からのクレームの電話対応です。焦ってどう対応したらいいのわからなくなり、先輩に任せてしまったことが今まで一番しんどいと感じました。</li> <li>・社葬や合同葬での式場準備・式後の片付けです。</li> <li>・事務員が1人の会館の時に、問合せ関係や来館での事前相談で来られたお客様の対応ができない時や、その日の施行の発注が滞ってしまう時にしんどいと感じることがありました。</li> <li>・身近に人が亡くなる辛さを感じたことが無く、入社してすぐ告別式の見学をさせていただき祭典の仕事は情に流されてしまったらできない仕事だと強く思った時です。</li> </ul>
3年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿直で夜間に搬送業務に出た時です。</li> <li>・御葬儀の依頼を受けることです。それがないと始まらない仕事ではありますが、大切な人を亡くされた、ご心痛の方からの電話の対応はいつもしんどい、と感じてしまいます。気丈に振舞っていらっしゃいますが話の最中に悲しみが込み上げて号泣される方も少なくないので、しんどい、心苦しい思いになります。</li> <li>・大きなお式が行われる際の事務処理等が開式前まで間に合わず事務所内で慌ててしまったことがありました。特に供花のご注文の連絡が100本を越えた際の電話応対がしんどいと思うこともありました。</li> <li>・社葬、合同葬の際の夜通しの作業です。</li> <li>・施行後にお支払が難しくなったご遺族とのやりとりに苦勞を感じたことがあります。</li> <li>・若くして亡くなった方のご葬儀。</li> </ul>

## 10. 担当を持っていますか？(何年目で担当を持ちましたか)

1年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約1年で事務員として1人で会館を担当することができました。</li> <li>・故人様を病院や自宅からの搬送業務や、霊柩車の運転等です(4カ月)。</li> <li>・生花部として1つの式全ての飾りを任せられるようになっております。</li> <li>・半年で担当を持つようになりました。</li> </ul>
2年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親族室での家族葬の担当は2年目に持ちました。</li> <li>・1年半～2年です。</li> <li>・半年で、写真に必要な消耗品関係の仕入れや在庫管理をしています。</li> <li>・入社してすぐの時期は、先輩と一緒に1件の施行家を担当し、1カ月後1人でその日の施行家を任されるようになりました。別の会館に異動になり、現在は異動後1カ月ぐらいで通夜菓子、紅白砂糖、提灯・蓮を担当しております。</li> </ul>
3年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年目(1年と2か月)で担当を持ちました。</li> <li>・1年半ほどで担当を持たせて頂いています。</li> <li>・1件の施行に対して、発注から葬儀が終わるまでの事務を1人で行っていきます。入社半年頃から規模の小さい家族葬を任せて頂きました。そこから徐々に一般葬などの事務を行っていくようになりました。</li> <li>・2年目から式場を使用されない、和室で行う家族葬の担当や司会者の補助として担当を持つようになりました。</li> <li>・入社して半年で担当を持たせて頂きました。</li> <li>・現在、葬儀の施行、式の責任者を任せております。入社2年目で任せて頂けるようになりました。葬儀の部署に配属されてからは半年です。</li> </ul>

## ◆社内環境について

### 11. 上司や先輩と接する上で気をつけていることは何ですか？

1年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉遣いや態度、報告の仕方などを気付けています。</li> <li>・質問する前に自分なりの考えを持つようにしています。</li> <li>・上司や先輩にできるだけ迷惑が掛からないように気付けています。</li> <li>・尊敬の気持ちと、相手が気付く・行動する前に自らが行動する事です。</li> <li>・大きな声で、ハキハキと素直な態度で接する事を気付けております。</li> <li>・緊急の時以外は、話しかけたり教わるタイミングを計るようにしております。</li> <li>・できるだけコミュニケーションをとるようにしています。言葉遣いに気付けて、教えて頂いていることにいつも感謝しています。</li> <li>・最後までしっかりと話を聞くことを心掛けるようにしています。</li> <li>・先輩方が教えて下さっていることをメモを取るなどして何回も聞き返さないように気付けています。</li> </ul>
2年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝出勤した際には上司、先輩には必ず自ら挨拶を行えるように気付けています。</li> <li>・礼儀は常にわきまを、線引きを正しくして、敬意を忘れないようにしています。</li> <li>・上司が忙しいタイミングではないかどうかということと話すべき事柄なのかという事を考えます。</li> <li>・上司や先輩と話す際は必ず手を止めて話を聞き、大事な点はメモを取るように徹底しています。</li> <li>・コミュニケーションをとる上でプライベートには無理に踏み込まないようにしています。</li> </ul>
3年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親しき仲にも礼儀あり、というように、気さくに話して下さっていても仕事では大先輩や上長であることに変わりはないので、質問や話がある際は様子を伺い、お時間があるかの声掛けをしつつ、分からないことは自分で判断せずに上司や先輩の指示や判断を仰ぐように心がけています。</li> <li>・聞き漏れのないようにメモをとりながら伺う、また引継ぎの場合は細かく内容を伝えるようにしています。</li> <li>・思ったことをそのまま発言しないよう、一度考えてから発言するように心掛けております。</li> </ul>

一般社団法人全日本冠婚葬祭互助協会

会 長 山下 裕史(株式会社117)

広報・渉外委員会

委 員 長 志賀 司(株式会社セレモニー)

副委員長 安田 幸史(株式会社サンセルモ)

上田 堅司(ユウベル株式会社)

委 員 京野 健幸(株式会社協同企画)

酒井 登(株式会社ノウエル)

三浦 尚克(株式会社フローラ)

鷺 修央(アイバル株式会社)

鈴木 康伸(株式会社セレモニア)

竹内 圭介(株式会社サン・ライフメンバーズ)

「リアルな場づくり」報告書

発行日 2020年(令和2年)1月22日

発 行 一般社団法人全日本冠婚葬祭互助協会

広報・渉外委員会

